

# 2015年度相互評価報告書

札幌大谷高等学校

2016年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

## I. 建学の精神・教育理念・教育目標・学校目標 この領域の評価の総評

札幌大谷高校の建学の精神の歴史は明治39年に「清く正しく只一筋に」と定め、知的陶冶・徳的陶冶の両面で心の修養をすすめる良妻賢母を教育の柱として、北海道女子教育の中心的な役割を以て実践してきたことは北海道教育史に脈々と綴られ、また評価を受けた歴史がある。併せて、建学の精神から導き出された教育目標は中・高の段階的に自立した人格の形成に結びつくものと高い評価ができる。

そのことの裏付けとして、いまに続く全教職員共通理解のもと学校総体、一丸となって教育活動にあたる姿勢がある。

さらにそのことの研修として宗教行事や研修会等の充実が今にある。このことは、北海道大谷学園連合会加盟校のリーダー的存在として崇高な理念のもとに教育活動をされてきたことがこの項の自己点検評価からうかがえる。

## II. 分掌

### 【教育課程・学習指導（教務）】

シラバスが綿密に作り込まれており、教科指導の方針が確立されていること、そしてその周知が生徒及び保護者に対して充分に行われ、理解も得られているであろうことが伺えます。また、複数回に渡ってシラバスの点検・反省を行っていることから不断の質の維持向上が図られる体制が形作られていることも伺えます。

学習状況については、集計データを用いることでより客観的で説得力のある学習意欲喚起につなげていると考えられます。また、教科会議を行うことで進度調整を行い、懇談を実施することで家庭での状況の把握が行われており、より生徒にマッチした形でのアプローチを図っていると考えられます。

学習指導の中心は当然授業ですが、その授業時間割編成において苦慮されていることがうかがい知れます。しかし、教務部において様々な方策を立てて対応されているようです。本校においても時間割編成については常に頭を悩ませているところですが、貴校での取組みを参考にしていきたいと思えます。

今後も更なる検討を重ねてよりよい道筋を模索して頂きたいと思えます。

んでいるのだと感じます。また、「学力点検」については本校でも課題となって挙げられていたところですので、是非参考にさせていただきながら検討していきたいと考えています。

### 【特別支援教育】

生徒相談部の設置、関係者会議、長欠会議と組織的な体制づくりが構築され、情報の共有や、指導方法の検討と実践がなされている。また、保護者をはじめ、関係機関と連携を図りながら対象となる生徒一人一人を支援している様子が伺えます。今後も個別性をふまえた組織的な支援教育に努めていただきたいと思います。

### 【地域活動】

ホームページが積極的に活用されており、学校行事の内容や写真などを新着情報として載せ、その都度更新し家庭や地域に学校の様子をPRしていることや、花祭りや報恩講などの行事の際、生徒が持ち寄った花を手し、普段お世話になっている学校医や交通、消防関係や出身中学校などに直接ご挨拶をかねて訪問していることは、札幌という大きな都市でありながら、地域と生徒が直接触れ合えるとても良い機会であり、今後も是非続けていただきたいと思います。

### 【図書館】

図書館蔵書は約2万6千冊で学校図書館法から見て十分な冊数であると思います。学術雑誌も扱っており、閲覧スペースも充分にあり、また司書や司書教諭が配置されていることから生徒への図書利用推進の環境として適切であると考えられます。また、「図書館利用ガイド」が発行されていることで図書館の利用のルールが明確になり適切な図書館利用にもつながっていると考えられます。

## Ⅲ. 管理運営（ガバナンスの確立） この領域の評価の総評

教職員組織の在り様で課題とされている点を踏まえて、新しい（魅力ある）学校づくりの工夫等で検討がされる旨の自己点検がなされている。

またその手法として、教職員間のコミュニケーションと共通理解を深めることを課題とし